



第10号

2月1日発行

2023 学びの丘学園

おかのうえのぼくら

文責:学びの丘学園コーディネーター 上野陽二

コミセン
寺子屋

1月20日(土) 合同「寺子屋」交流会実施

自南小
寺子屋

1月21日に自由ヶ丘小学校と自由ヶ丘南小学校の子どもたちの交流を図るために、コミセン開催の「寺子屋」と自由ヶ丘南小学校「寺子屋」の合同「寺子屋」を開催しました。参加者は、自由ヶ丘小学校9名、自由ヶ丘南小学校3名の計12名でした。13:30~14:30までは、自分の課題と向き合い学習、その後、交流活動を行いました。交流活動は、4グループに分かれて、日本の伝統文化である福笑いと学年の力の差が出にくい風船バレーを行いました。

福笑いは、「寺子屋」の先生方で審査しましたが、ユニークなものや正確に作り上げている作品と様々で、甲乙つけがたく全グループ優勝ということになりました。

風船バレーには、「寺子屋」の先生方も加わり、子どもたちと一緒に楽しみました。先生方の動いている姿に、子どもたちからエネルギーをいただいているんだと感じました。先生方と一緒に今後も楽しい交流会を企画したいと思います。



福笑い



風船バレー

着実に歩みを進める「子どもおとな会議」



【A班】

3月24日の花いっぱいイベントに備えて、試作品として、ペットボトル植木鉢にマリーゴールドのタネをまく子どもたち。

「丈夫に育てて欲しいです。」



【B班】

ポアッキーマップ、掲載する箇所をわかりやすい道路地図に落とし込む作業に取り組んでいます。手作りの地図の完成が楽しみです。



【C班】

チラシ担当と当日の計画班に分かれて検討。上の写真は、『おかりん食堂』の久藤さんに助言をいただきながら、チラシを作成しているところです。

3部会の協議報告

- 〔熟議1〕 学びの丘学園サポーター制度について
- 〔熟議2〕 令和5年度の振り返りと令和6年度に向けて

【学び甲斐部会】

〔熟議1〕 コーディネーターは、現役世代の人には難しい。青少年育成部会員やコミセンの職員が良い。さらに、PTAが入るとベターである。



〔熟議2〕 熟議の時間が短いのでこの時間で決めるのは難しい。もう少し時間が欲しい。GT・VTの依頼を早く出して欲しい。教師とGT・VTが「何をする」「どうする」などの打ち合わせをしっかりとしないとねらいが伝わってこないで、指導ができない。

【働き甲斐部会】

〔熟議1〕 ポスターは、子どもたちが作った方がよい。手作り感があり、大人へ繋げることができ、参加しやすくなる。



〔熟議2〕 児童生徒の行うボランティア活動の輪を広げたらよいのではないかと。

【過ごし甲斐部会】

〔熟議1〕 サポーターは、PTAのOBが良い。学校のことが分かるので。副会長を中心に人選すればよいのではないかと。高齢化につきボランティアがどれくらい集まるのか心配。集める工夫が必要。

〔熟議2〕 中高生の居場所づくりの声掛けはできた。なか森やわくわく体験活動のように継続して取り組むことで、互いに知り合い（大人も子どもも）繋がっていく。人を集めるためには中身の検討が必要。ということが求められているのかを知り、例えば、テーマを「子育て」「お金」「性」等にして、地域の講話できる人材と繋ぐことが大切。テーマを広げることで人材が増える。



- 【教育大学教授：伊藤先生】
1. 学びの丘学園には、教育目標『ふるさと「学びの丘を」を愛し、夢に向かう子供の育成』、重点目標「本気で学ぶ心」と「学びあう力」を身に付けた子どもの育成という目標がある。その目標を達成するために、ねらいをもった活動を進めなくてはならない。そのためには、学校が、ゲストティーチャー（GT）・ボランティアティーチャー（VT）と支援方法や活動を仕組んでいくことが大切である。そうすることで、双方に活動の意義や価値を感じることができる。
 2. ボランティア募集は何の為にするのかを明らかにし、募集のポスターを作成する。子どもたちに作成させては。
 3. サポーターコーディネーターは、PTAのOBを取り込むことができるとよい。
 4. 学園関係者評価項目の「地域に貢献したい」では、子どもは高い評価を示し、一方、保護者や教師の評価が低かったということですが、子どもたちが言われなくてもできるという姿と見とれるのではないかと。評価の在り方として、平均をとるとすることが多いが、内容によっては、見方が異なる。子どもたちが言われなくてもできるという姿から、AAAという評価と言ってもよい。

【宗像市教育委員会指導主事：石川先生】

1. ボランティアティーチャー（VT）のしくみなど、率直に意見を出し合い話し合われていることが素晴らしい。
2. ゲストティーチャー（GT）・ボランティアティーチャー（VT）の二つのルートがあることが良い。ルートとツールの仕組みが必要。
3. 学園関係者評価に「朝食摂取率」がある。「朝食摂取率」を高めるために「食」の取り組みが大切。